

ウィズ便り

令和5年 3月号



旭区
山本善造様
の作品

少しずつ春の柔らかい日差しを感じられる季節となりました。
厚いコートやセーターを片付け、春に向けての準備をされている方もいらっしゃるのではないでしょうか。

「春眠暁を覚えず」と言われるように、暖かい春の朝は心地よく
つつい寝過ぎてしまうこともありますよね。

寒暖差や環境の変化、花粉症などの影響で眠気を引き起こしやすい
季節でもあります。

規則正しい生活を心掛け、春を楽しめるといいですね。

介護の現場から・・・シリーズ ～介護すること、されること～ (29) Kさんと車いす

Kさんはルールを大切にされる真面目な方でした。長年、鉄工業を営まれる中で、膝関節の痛みが続き、歩行も困難になってこられました。元々活発でご家族思いのKさんは、以前と同じように、ご家族と一緒に楽しみをもちたいと願われ、両膝関節及び頸椎の手術を受けられました。術後、動けない身体ではいけないと奮起され、お孫様との外出を目標に、自宅に帰れる日を目指し、必死にリハビリに励まれました。退院後も手指のリハビリになるからと、内職等もされながら、近隣の散歩を欠かさず、体力維持・向上に努められました。

しかし、自宅から病院までの片道1kmの移動が難しくなられ、ご自身の力で移動したいとの思いから、移動方法のご相談を頂きました。カンファレンスの中でご意向を確認し、電動車いす利用について検討、操作や周辺環境及び安全な移動ルートの確認をご一緒させて頂き、ご利用がスタートしました。

活動的なKさんは、いつも敬老会の旅行やご夫婦、家族様、特にお孫様とのお買い物等、電動車いすでの外出時の様子を、充実した表情で嬉しそうに話して下さいました。また電動車いすでの体験談をお聞きし、交通環境の相談を頂きました。ご自身の体験として、病院や整骨院への外出の際に、自動車は自分のすぐ横をととても速いスピードで通り過ぎて接触しそうになり怖かったことや、走行中に後方の自動車に気づき、停車して進路を譲ったが、後方に張り付かれる等の怖い体験を伺いました。どのようにすれば安心して移動できるか話し合い、交通量が少ないルートの選別、ドライバーに認識してもらえらるライトを取り付ける等、様々なことに一緒に取り組みました。



その中で、いつも電動車いすがドライバーからは死角になりやすく、認識し辛く迷惑をかけてしまわれると嘆いておられました。「車いすで移動することで周りに迷惑がかからないように、自分は絶対に交通ルールを守らないといけない」という思いも、より強くなっていかれました。同時に、多くの方が交通ルールを守ることで、車いす利用者を含む誰もが過ごし易い環境にしてほしいとの願いを話していただきました。

当時のKさんのお話を思い返すと、前向きな思いや、ご自身のことだけでなく、周囲の相手を思いやる温かさを感じます。そして福祉用具専門相談員は、福祉用具のことだけでなく、ご利用様から教えていただけるたくさんの現場の生の声を、もっと社会に伝えていく役割があることを実感させていただきました。

Kさんは昨年91歳で永眠されましたが、平成21年からご利用いただき、その間お怪我等なく、ご利用いただくことができました。Kさんの家族様には、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

←Kさんのご家族様（いつも通院を自転車でご一緒されていた奥様と娘様です。現在も福祉用具専門相談員として奥様のご支援をさせていただいています。）



和式の便器は日本に古くから存在します。和式便器は平面床に埋め込んで施工される一般の和式便器と和式便器を一段（20～30cmほど）高くした床に設置し、便器後部を段違い部に張り出させて男子小用を兼ねる両用便器（兼用便器、段差式とも呼ばれる）が存在し、小便器の設置空間が取り難い日本の住宅環境もあり、一般住居で広く採用されていました。

出典：フリー百科事典「ウィキペディア（Wikipedia）」

和式トイレは、しゃがむことで前傾姿勢となり、より便を出しやすくすることや、便座に直接座らないことがメリットとしてあります。しかし、高齢者や介護が必要な方にとっては、しゃがむ姿勢が足腰の痛みなどでとても辛いものとなります。また、バランスを崩して転倒するリスクもあります。なるべく股関節や膝関節の曲がる角度を少なくすれば、負担は少なくなり、立ち上がりもしやすくなります。

そのような和式トイレ（両用便器）の解決策として、和式トイレに工事不要で簡易設置型洋式トイレ（写真①）をかぶせるだけで洋式トイレに変わります。そして、そこに座っている姿勢の保持や立ち上がり用の手すりとして「Newすわっ手」（写真②）があります。「Newすわっ手」は、左右の手すりの高さを3段階に調整することができ、転倒する危険性がなく、安心して立ち座り動作ができるようになります。また、赤いグリップは握りやすいスポンジとなっていますので、手首にも負担が少ないのが特徴です。また、足の踏ん張りが足らず滑る場合は、表面も裏面も滑りにくい加工の「立ち上がりトイレマット」（写真③）を敷くことで、踏ん張りやすく、安全に立ち上がることができます。

① サニタリーエースHG両用式
特定福祉用具購入対象品



両用式便器
定価21,780円（税込）
和式トイレにかぶせるだけで
洋式トイレに早変わり

② New すわっ手
(和式便器用手すり)



●便器本体に簡単に取り付けられます
●ビスで床に固定することもできます
定価31,900円（税込）

福祉用具貸与対象品

月額レンタル料2,500円
1割負担250円 2割負担500円 3割負担750円

③ 立ち上がりトイレマット



すべり止め効果が高い素材を使用しているため、マットがずれにくく、しっかり踏ん張って立ち上がれます

定価3,080円（税込）

リバーシブルタイプ

ご存じですか？ 『我が事・丸ごと』 - 私たちの暮らす地域は、これからどのように変わっていくのか -

「我が事・丸ごと」地域づくりとは、地域共生社会を実現するための具体的な仕組みづくりのことです。国は、他人事になりがちな地域づくりを地域住民が「我が事」として取り組める様に、また市町村においては、住民がかかえる様々な課題を「丸ごと」受け止める体制を整備していくことで、地域共生社会を実現していく体制づくりを目指しています。

「地域共生社会」とは、制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指していくというものです。地域共生社会の実現は、平成28年6月2日に閣議決定されたニッポン一億総活躍プランに盛り込まれ、「子供・高齢者・障がい者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる地域共生社会を実現する。このため、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築する。」とされています。

高齢化の中で人口減少が進行している日本では、福祉ニーズも多様化・複雑化しています。人口減による担い手の不足や、血縁、地縁、社縁といったつながりが弱まっている現状を踏まえ、人と人、人と社会がつながり支え合う取り組みが生まれやすいような環境を整える、新たなアプローチが求められています。

これから私たち一人一人が、自分たちの暮らす地域がどのように変わっていくのか、はたまた、どのように変えていくのか、見守り、参画することが求められています。



お問い合わせ先 お気軽にお問い合わせ下さい。

株式会社 ウィズ

こちらのWEBサイト
をご覧ください。⇒



本社・吹田	〒564-0042	大阪府吹田市穂波町19-25
大阪西営業所	〒550-0014	大阪市西区北堀江4-17-13
旭区ショールーム	〒535-0013	大阪市旭区森小路2-2-13
東大阪センター	〒577-0012	東大阪市長田東3-2-2
東住吉営業所	〒546-0013	東住吉区湯里2-18-11-101
東京営業所	〒101-0032	東京都千代田区岩本町3-5-2-702
横浜営業所	〒232-0056	横浜市南区通町2-33-2-102
京急上大岡店	〒233-8556	横浜市港南区上大岡西1-6-1-7階

LINE公式アカウント



ウィズオンラインショップ



☎06-6310-6262
☎06-6536-9970
☎06-6955-6400
☎06-6748-8688
☎06-6707-0788
☎03-5821-8572
☎045-730-6255
☎045-848-7297